

2023年 関東大震災100年を迎えて

“今年は、1923年（大正12年）に発生した関東大震災から、100年の節目に当たります。関東大震災は、近代日本の首都圏に未曾有の被害をもたらした、我が国の災害史において特筆すべき災害です。

その発生日である9月1日が「防災の日」と定められているように、近代日本における災害対策の出発点となりました。首都直下地震や南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など、大規模災害のリスクに直面する現代の私たちに、大変参考となる示唆や教訓を与えてくれます。

この「関東大震災100年」[特設ページ](#)は、関東大震災の関連資料や報告書等について掲載するとともに、行政機関や各種団体等による関連行事の予定についてお知らせするものです。

内閣府でも、本年9月、関東大震災の震源地である神奈川県において、国内最大規模の防災イベント「防災推進国民大会」（ぼうさいこくたい）を開催するほか、国や地方公共団体、民間団体や各種学会等においても、関東大震災100年をテーマとする様々なイベント・催しが開催されます。

国民の皆様が、これらの情報に触れることによって、また、様々なイベント・催しに参加されることによって、関東大震災の記憶・教訓を継承し、一人ひとりの防災意識の向上が図られることを期待しています。

関東大震災100年を契機に、それぞれの立場で、また、それぞれの地域で、防災について考え、災害に備える機会としていただければ幸いに思います。

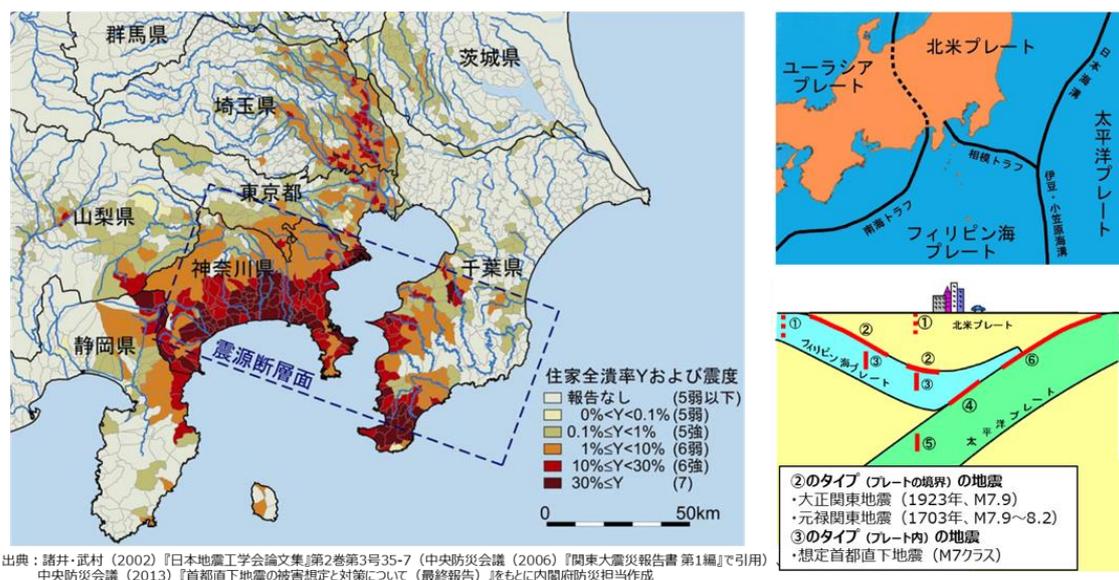
内閣府特命担当大臣（防災、海洋政策） 谷 公一

“

[内閣府防災情報ページ](#)より引用



関東大震災は東京での大火災による被害が大きかったために、東京の地震だと思われている方が多いですが、相模トラフを震源とする海溝型地震です。その範囲は神奈川県から千葉県南部を中心に震度7や6強の地域が広がっており、1995年の阪神・淡路大震災の10倍以上に達します。



関東大震災は火災による死者数が非常に多いですが、それ以外の建物の倒壊や津波などによる死者の大半は神奈川県に集中しております。上の図を見て頂ければわかるように、神奈川県においては震度7を記録しており現在の関内駅周辺の建物の倒壊は東京を遥かに凌いで全壊率80%になります。また鎌倉市においては津波による甚大な被害を受けております。このような事から神奈川県においても現在「関東大震災100年事業」として、地震防災対策の普及啓発の強化を図っております。



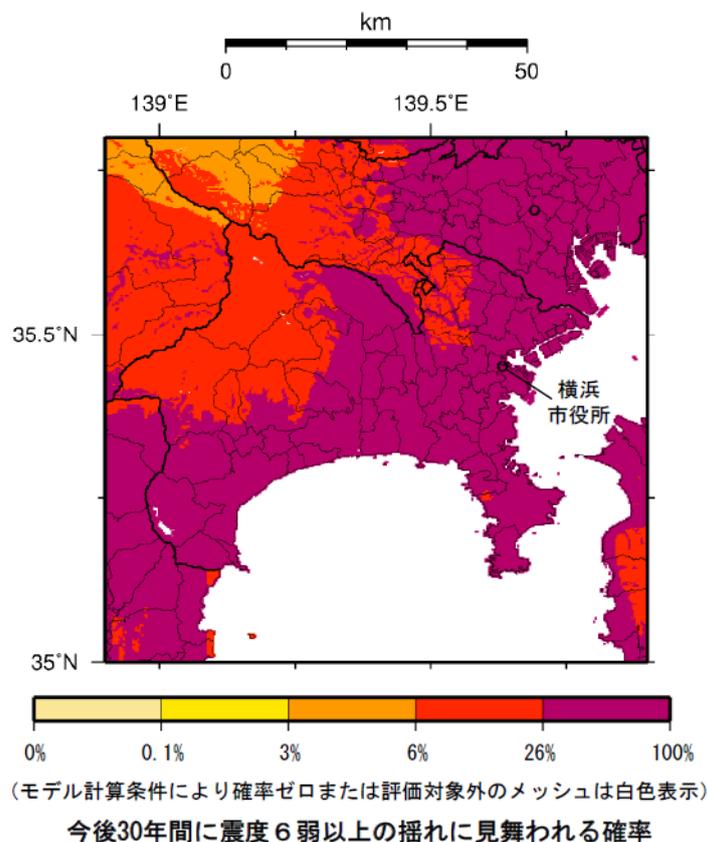
このように関東大震災 100 年を機に国や県などでも防災に関して以前にも増して啓蒙活動が盛んに行われておりますが、今までに「**今後 30 年以内に巨大地震が起こる可能性 70%**」などの言葉を聞いたことがあるかもしれませんが、これらは何を基に示されているかご存じでしょうか？ この辺りを知る事によってよりの確な防災対策ができるかもしれません。

先ほども少し触れましたが関東大震災は「**海溝型地震**」です。阪神淡路大震災や熊本地震などは「**内陸型地震**」となります。

今後予想されている地震においては**南海トラフ地震**がありますがこれは海溝型地震になります。海溝型地震は過去の地震を見ると「**同じ場所で同じような震度が同じ周期で繰り返す**」という結果があるためその周期に基づき今後の発生予測をしております。

また、**首都直下地震**もご存じかと思いますが、こちらの想定は東京都下で起きる特定の地震ではなく首都およびその周辺地域（神奈川県を含む）で起こる内陸型地震や相模トラフを含めた海溝型地震の両方を想定しております。

しかしながら内陸型地震の中に**活断層型地震**がありますがこちらは、発生間隔が数千年と長期なため予想が難しくなります。

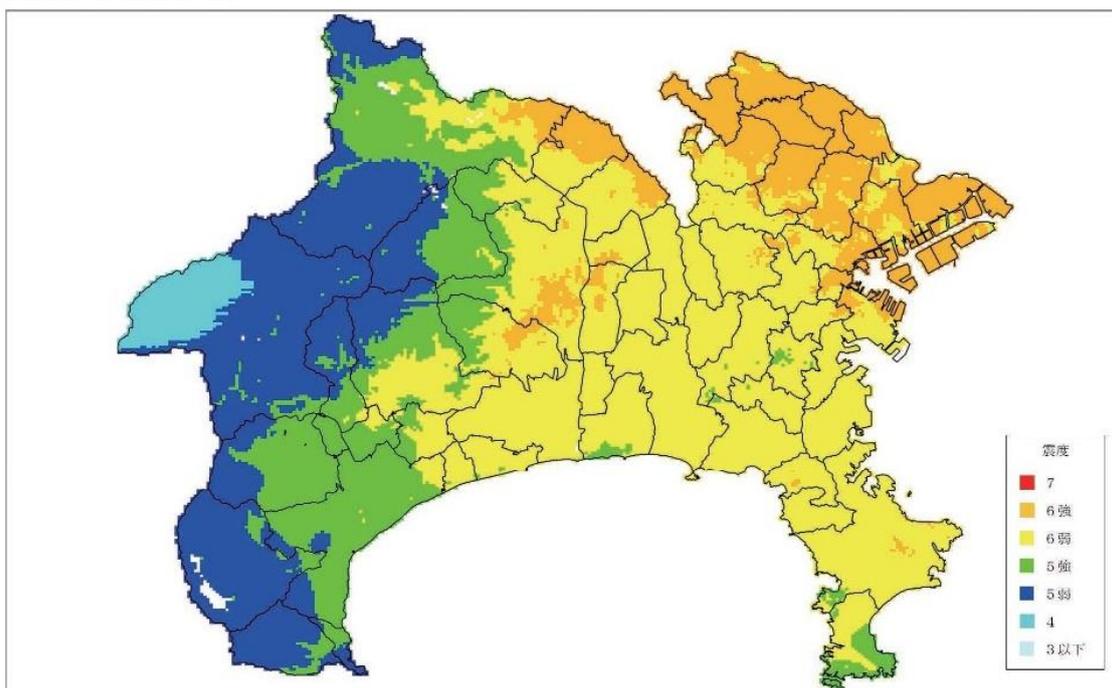


神奈川県では、県内に影響を与える6つの想定地震（都心南部直下地震、三浦半島断層群の地震、神奈川県西部地震、東海地震、南海トラフ巨大地震、大正型関東地震）及び5つの参考地震（元禄型関東地震、相模トラフ沿いの最大クラスの地震、慶長型地震、明応型地震、元禄型関東地震と国府津－松田断層帯の連動地震）について、地震が発生した場合の被害を想定し調査を実施しその結果を報告しております。以下に代表的な地震想定を示します。

・ 都心南部直下地震

県の中央部から東部にかけて震度6弱の揺れが想定され、特に、横浜市、川崎市、相模原市、厚木市で、震度6強の揺れが想定されます。人的被害としては、死者2,990人、重症者2,810人、中等症者24,680人、軽傷者35,250人と想定されます（火災の逃げ惑いによる死傷者は含まない）。横浜市、川崎市、相模原市で多数発生すると想定されます。

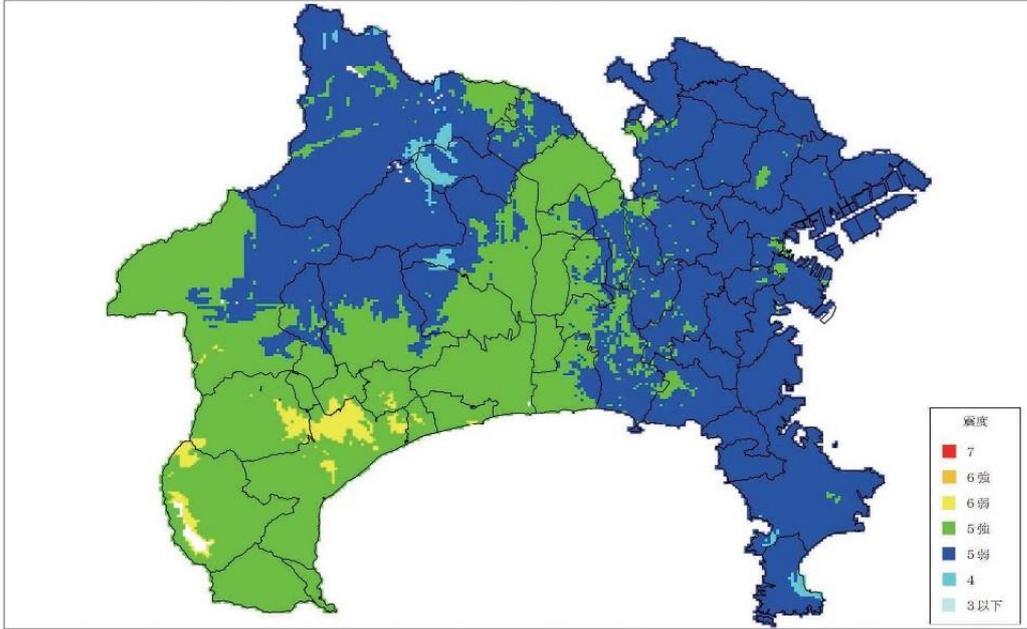
震度分布：都心南部直下地震



・ 南海トラフ巨大地震

県西地域の一部で震度6弱の揺れが想定されます。その他の地域は、震度5強以下と想定されます。人的被害としては、死者1,740人、重症者100人、中等症者1,020人、軽症者1,470人と想定されます。また、津波による死者は1,710人と想定されます。

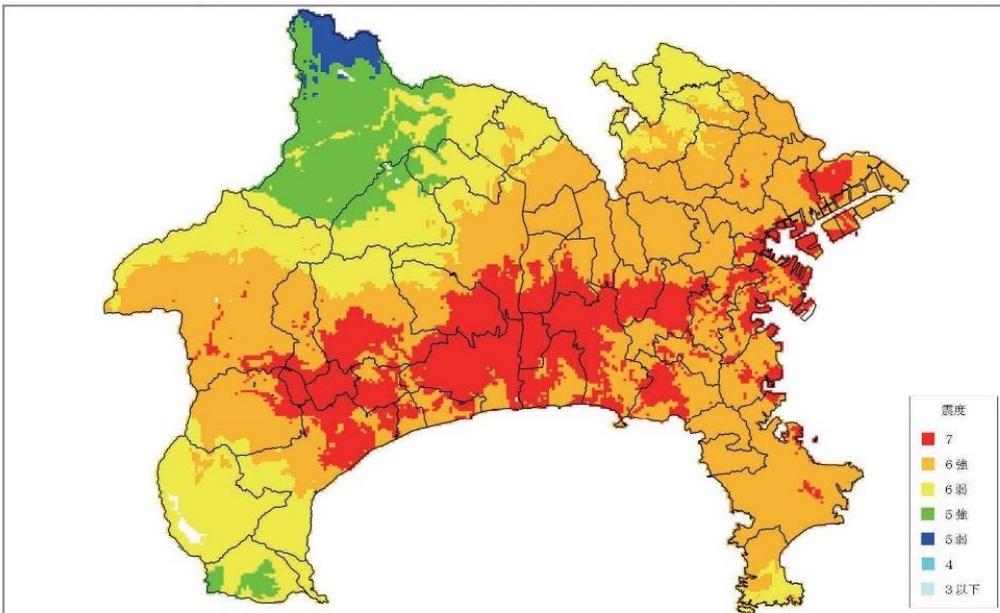
震度分布：南海トラフ巨大地震



・ 大正型関東地震（関東大震災再来型）

県西地域と県北部の一部を除き、ほぼ県全域で震度6強以上の揺れが想定され、特に、川崎市、横浜市から湘南地域、県央地域、県西地域にかけて、震度7の揺れ想定されます。人的被害としては、死者 31,550 人、重症者 11,790 人、中等症者 82,730 人、軽傷者 95,800 人と想定されます（火災の逃げ惑いによる死傷者は含まない）。また、津波 による死者は 12,530 人と想定されます。横浜市、川崎市、横須賀市、平塚市、藤沢市、小田原市、秦野市で多数発生すると想定されます

震度分布：大正型関東地震



マスコミやTVなどでは南海トラフ地震についての話題が多く取り上げられますが、各地震想定の結果は様々です。実際にはご自身の地域や環境を踏まえた上での防災対策が必要になります。神奈川県の本報告には人的被害など以外にも記載されておりますのでご興味のある方はご確認ください。以下にその他地震を含めた概要を示します。

【地震被害想定調 結果の概要】

項目 \ 想定地震	都心南部 直下地震	三浦半島 層群の地震	神奈川県 西部地震	東海地震	南海トラフ 巨大地震	大正型 関東地震
	7.3	7.0	6.7	8.0	9.0	8.2
死者 (人)	2,990	1,130	880	820	1,740	31,550
重症者 (人)	2,810	1,130	180	70	100	11,790
全 棟 (棟)	64,500	22,710	5,000	3,620	7,360	393,640
半 棟 (棟)	221,250	88,170	20,530	14,450	20,110	410,160
失棟 (棟)	37,600	11,980	710	0	0	169,780

災害想定は同じ地震でも地域によって異なります。東京都も津波などの想定はしておりますが、直接太平洋に面している神奈川県とは異なります。神奈川県の作成した津波想定動画を示します。皆様も是非ご自身の地域性を理解した上で防災対策を行ってください。

- ・ 神奈川県公式動画 かなチャンTV



* 参考資料 ・ 神奈川県およびその周辺地域の今後の地震発生確率

地震		マグニチュード	地震発生確率 (30年以内)
海溝型地震			
日本海溝沿い	超巨大地震 (東北地方太平洋沖型)	9.0程度	ほぼ0%
	福島県沖	7.0~7.5程度	50%
	茨城県沖	7.0~7.5程度	80%
	青森県東方沖~房総沖 (海溝より)	8.6~9.0	30%
	沈み込んだプレート内の地震	7.0~7.5程度	60~70%
相模トラフ	相模トラフ沿いのM8クラスの地震	7.9~8.6	0~6%
	プレートの沈み込みに伴うM7程度の地震	6.7~7.3	70%
	南海トラフで発生する地震	8~9	70~80%

内陸の活断層で発生する地震		
三浦半島断層群 (衣笠・北武断層帯)	6.7程度	0~3%
三浦半島断層群 (武山断層群)	6.6程度	6~11%
三浦半島断層群 (南部)	6.1程度	不明
伊勢原断層	7.0程度	0~0.003%
塩沢断層帯	6.8程度	4%以下
平山—松田北断層帯	6.8程度	0.09~0.6%
国府津—松田断層帯	相模トラフで発生する海溝型地震と同時に活動すると推定	